慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	市民活動組織の構造特性とネットワーク形成の比較分析と理論構築
Sub Title	
Author	宮垣, 元(Miyagaki, Gen)
Publisher	福澤基金運営委員会
Publication year	
Jtitle	福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金事業報告集 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	市民活動組織の構造的な特性のひとつに、その活動と組織の多様性がある。本研究では、こうした多様性の要因とともに、その多様性が導出する革新性（社会イノベーション）のプロセスに関心をもち、理論と実証の双方からこれにアプローチした。 まず理論面については、当該組織の多様性をいくつかの軸（事業性-運動性、組織性-包摂性、マルチステイクホルダー、事業収入のカテゴリなどの諸特性）から説明する分析枠組みを検討した（宮垣 2023においてその一部を提示）。多様性の分析は、福祉レジームの違いを前提に、国際比較研究プロジェクト等によるマクロデータからある程度アプローチ可能だが、こうした説明では同一レジーム内に存在する多様性（地域内・間における構造的な差異や層化）を説明することはできない。90年代当初、日本が概念上も制度上もその範とした米国のNPO/NGOと大きな差異が認められるのは、国全体の社会経済体制や歴史的文脈の違いのみならず、地域の社会課題、関連法制度の違いや個別政策、エスニシティなどを含む地域特性、それらと相互作用する組織特性組織や内外のネットワーク特性などから説明できると考えられる。こうした着想から、実証面においては、ミクロ / メゾレベルでの地域間比較の実施可能性を念頭に、サンフランシスコ・ベイエリアを中心に活動を行うNPO/NGOなどの市民活動組織の事例調査を継続的に行い、関連する基礎資料・データを得た。当該エリアは地域コミュニティにおいてヒューマンサービスやエスニックイシューなどの分野の活動が盛んなエリアでもあり、先端事例の調査地として適切であると考えられる。これらの調査は、将来的な国際比較調査や共同研究を視野に入れ、今後も継続的に実施予定である。 以上の成果の一部は、書籍、論文、報告などのかたちで順次発表予定である（一部については発表済み）。また、将来の共同研究や教育活動での協働を視野に、関係者・機関と研究交流を行った。
Notes	申請種類：福澤基金国外留学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12003001-20210001-0004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021年度　福澤基金（国外留学補助）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	総合政策学部	職名	教授
	氏名	宮垣 元		

研究課題

市民活動組織の構造特性とネットワーク形成の比較分析と理論構築

研究成果実績の概要

市民活動組織の構造的な特性のひとつに、その活動と組織の多様性がある。本研究では、こうした多様性の要因とともに、その多様性が導出する革新性（社会イノベーション）のプロセスに関心をもち、理論と実証の双方からこれにアプローチした。

まず理論面については、当該組織の多様性をいくつかの軸（事業性-運動性、組織性-包摂性、マルチステイクホルダー、事業収入のカテゴリなどの諸特性）から説明する分析枠組みを検討した（宮垣 2023 においてその一部を提示）。多様性の分析は、福祉レジームの違いを前提に、国際比較研究プロジェクト等によるマクロデータからある程度アプローチ可能だが、こうした説明では同一レジーム内に存在する多様性（地域内・間における構造的な差異や層化）を説明することはできない。90 年代当初、日本が概念上も制度上もその範とした米国の NPO/NGO と大きな差異が認められるのは、国全体の社会経済体制や歴史的文脈の違いのみならず、地域の社会課題、関連法制度の違いや個別政策、エスニシティなどを含む地域特性、それらと相互作用する組織特性組織や内外のネットワーク特性などから説明できると考えられる。こうした着想から、実証面においては、ミクロ／メゾレベルでの地域間比較の実施可能性を念頭に、サンフランシスコ・ベイエリアを中心に活動を行う NPO/NGO などの市民活動組織の事例調査を継続的に行い、関連する基礎資料・データを得た。当該エリアは地域コミュニティにおいてヒューマンサービスやエスニックイシューなどの分野の活動が盛んなエリアでもあり、先端事例の調査地として適切であると考えられる。これらの調査は、将来的な国際比較調査や共同研究を視野に入れ、今後も継続的に実施予定である。

以上の成果の一部は、書籍、論文、報告などのかたちで順次発表予定である（一部については発表済み）。また、将来の共同研究や教育活動での協働を視野に、関係者・機関と研究交流を行った。

本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）
宮垣 元	「社会イノベーションを生み出す NPO の複雑性：ソーシャルセクターの多様性をどう理解すればよいか」	琴坂将広・宮垣元編著『社会イノベーションの方法と実践』（慶應義塾大学出版会）	2023 年 3 月 10 日
Gen Miyagaki	“Social Innovation and NPOs in the Bay Area”	Berkeley Japanese Studies Network(Annual Conference)	2023 年 3 月 8 日